



りんご生産情報（4月号）

令和3年4月19日
JAつがる弘前
弘前北地区営農係

**現在ふじの生態は、平年より7日早い4月10日に展葉が確認されました。
ふじの落花直後まで黒星病の重点防除時期となります。生態と気象を考慮した散布
タイミング、また適正な散布量を確認して、防除を実施するようにしましょう。**

《ふじの生態》

管内、ふじの発芽日は平年より11日早い3月31日、ふじの展葉日は平年より7日早い4月11日となりました。
今後、気温が平年並みに推移した場合、ふじの開花日は4月30日頃と予想されるため、生態と気象予報を考慮して適期防除を心掛けましょう。

4月15日現在

場所	年度	発芽日	展葉日	開花日(予想)
鬼沢	本年	3/31	4/11	(4/29)
新和	本年	3/31	4/11	(4/29)
三和	本年	3/31	4/10	(4/29)
十腰内	本年	3/31	4/9	(4/29)
農協管内	平年	4/10	4/19	5/9
	前年	4/1	4/13	5/6
りんご研究所	本年	3/30	4/7	(4/30)

※開花予想は平年値を参考にしているため、気温により変動します。

《薬剤散布》

回数(散布量)	散布時期(散布日)	対象病害虫	薬剤名及び調合順序	倍数	1000ℓ当り薬量	防除上の注意
1 (300ℓ)	ふじの展葉1週間後 (4月16日)	リンゴハダニ ハマキムシ類 黒星病・モリア病	精製マシン油 ダズバンドF ベフラン液剤	200倍 3,000倍 1,000倍	5ℓ(1/4) 167g×2 500ml×2	サンホーゼカイガラの発生が見られる場合はアプロード1,000倍も使用する。ベフランは最後に調合する。
特別散布 4月23日 (300ℓ)		黒星病 腐らん病 モニリア病	ベフラン液剤	1,000倍	500ml×2	生態と基準散布の散布間隔が開く場合は、特別散布を実施する。
2 (320ℓ)	ふじの開花直前 (4月29日)	黒星病・モリア病 うどんこ病 シロカゲハキ	カナメフロアブル カスケード乳剤	4,000倍 4,000倍	250ml×1 250ml×1	前回(特別散布)からの散布間隔は10日以内とする。
3 (350ℓ)	ふじの落花直後 (5月9日)	黒星病・黒点病 うどんこ病 シロカゲハキ	ミギワ20フロアブル チオノックフロアブル カスケード乳剤	4,000倍 500倍 4,000倍	125ml×2 2L×1 250ml×1	開花期間が長引く場合でも、前回からの散布間隔は10日以内とする。

※散布日は平場を基準としています。

《凍霜害防止対策》

りんごの耐凍性は発芽期(−2.2℃)から開花期(−1.5℃)まで徐々に弱まり、低温で1時間以上経過すると被害が発生する恐れがあります。降霜は前日午後7時の気温が6℃以下で、晴天無風の場合に危険性が高まりますので、今後は気象情報に注意しましょう。

燃焼資材の着火は、危険温度の1℃高い時点で点火し、防霜ファンでは始動温度を2℃に設定しましょう。

《結実確保対策》

近年、ふじに偏っている園地など単植園の増加により受粉環境が悪化しています。また、マメコバチは開花期間中の不順天候により活動が鈍りますので、積極的に人工授粉を行い結実確保に努めましょう。

《人工授粉》

花は風船状から開花直後のものを採取しましょう。
○ラブタッチの活用で省力化！
ラブタッチは梵天授粉に比べて作業時間が1/4に省略可能です。
10a当たり花粉24g、石松子100g(梵天の2倍)

《マメコバチ》

巣の設置は一か所当たり2~6箱で、南側を向くように60~80m間隔で設置しましょう。
また防鳥網を張り、巣箱前には深さ40cm程度の穴を掘って、マメコバチの土取り場を作りましょう。